NPO 法人日本空手松涛連盟静岡県本部

静岡松涛タイムス

第 43 号

発行元：静岡県本部広報部　　責任者：滝田宏平
連絡先：0547-36-1238(TEL)　0547-36-1293(FAX)
E-mail：kouheichan@tiara.ocn.ne.jp
URL　http://www.shizuoka-karate.com/（公式 HP）
http://www4.tokai.or.jp/sougou/　（広報部）

第11回全国空手道選手権大会

於　愛媛県松山市愛媛県武道館

灼熱の太陽がギラギラと照りつける酷暑のこの季節、今年もとてつもなく暑く、そして熱い JKS 夏の祭典「第 11 回全国空手道選手権大会」が 7/31～8/1 の 2 日間に渡り開催されました。今回の開催地は愛媛県。会場となった愛媛県松山市の愛媛県武道館には、早朝より純白の空手衣に身を包んだ拳士が日本各地より集結し、国内各地の厳しい予選を勝ち抜いてきたどの選手の顔からも、自信に満ち溢れた堂々とした表情をうかがう事ができました。愛媛県といえば忘れてはならないのが、前主席師範浅井哲彦先生です。浅井先生は、ここ愛媛県にて生を受け、生涯空手道の普及に尽力されました。空手界最後の重鎮とも言われ、世界各国でもカリスマとして多くの門下生を育てられました。病に倒れても尚、毎日の稽古を欠かさず、亡くなる直前の 7 月 29 日の全国大会にも眼光鋭く、会場にて試合を観戦されたことは、あまりにも有名です。2006 年 8 月 15 日惜しまれながら永眠されました。(享年 71 歳) その浅井先生ゆかりの地で大会が開催される事に、いつも以上に気持ちを引き締めて出場した選手を大勢見かける事ができました。静岡県選手団は、大会前週に静岡市北部体育館にて、強化練習として型・組手の合同練習が組まれ、県本部指導陣が選手の仕上り具合の最終チェックが行なわれました。特に型では、全体の流れの中においての重要箇所のポイントのアドバイスがありました。午後の部では試合勘を養うため、練習の後半が試合形式で進められ、選手は本番さながらの練習試合に全員が気迫をもって臨みました。選手は県大会にて上位入賞しているだけあって、指導陣のアドバイスをただちに理解し、実践していました。選手も指導陣も大会への手応えを感じる事のできた強化練習となりました。選手全員が万全の体制で大会当日を迎えることができました。空路松山入りした人、JR を乗り継いで来た人、チャーターバスや乗用車で来た人等、様々な経路で松山入りした選手や役員・審判員の先生方が大会初日(7 月 31 日)に武道館に集結しました。武道館に着いてまず驚いたのが、その圧倒的な存在感です。愛媛県産の木材、菊間瓦、大島石、砥部焼などを利用して建設され、日本武道館や東京武道館と並ぶ日本最大級の規模だそうです。初日は幼・小・中・高といった少年の部が行なわれました。全国大会特有の熱く、そしてクールな独特の雰囲気の中、選手達は試合開始前の貴重な時間を、各自が有効に活用しておりました。開会式にて JKS 会長村上誠一郎先生、主席師範香川政夫先生の挨拶の後、いよいよ本大会が開始と

なりました。どのコートからも凄まじい熱気と気迫を感じ、あらためて全国大会を実感しました。さすがに各県の精鋭揃いということで、1 回戦から誰が勝ってもおかしくない厳しい内容の試合が会場内すべてのコートで展開されておりましたが、静岡県選手団のメンバーも全国の精鋭に対し、一歩も引くことなく堂々とした内容で次々に駒を進めていました。また、勝負の世界ですので勝者がいれば敗者もおります。惜しくも試合に敗れたとしても、同じ支部や静岡県の選手を力一杯応援するその姿に、幼いながらも空手道を目指す武道家を感

じる事ができました。昼食時には主席師範香川政夫先生自らコートに立ち、総本部指導員の金山亨鐘先生と模範演武を披露していただきました。その正確無比な技のコントロールや体裁きに、会場からは大きな拍手が鳴り響きました。また、水上勇先生の、空手界への永年の功労を称え、日本空手松涛連盟会長賞を受賞いたしました。初日は少年部の団体戦型・組手決勝まで個人戦型・組手の準決勝までが行われました。静岡県の優勝第 1 号は、高校生男子団体組手で川根支部が見事獲得いたしました。大会 2 日目は少年部型決勝・組手準決勝及び決勝と一般部の試合が開催されました。この日に駒を進めた静岡県選手も大勢いました。予選時の緊張と集中

力を切らすことなくコートに立ち、超満員の観客の大歓声の中、全員が優秀な成績を収めることに成功しました。引き続き一般の試合が始まりましたが、今大会より新たに古典型・一般 2・3 部自由組手が新設され、静岡県からも普段は指導にあたっている先生方やメンバーが様々なカテゴリーに出場しました。毎年全国大会を取材して思うのですが、選手や父兄、指導陣の一体感を最も強く感じるのが「親子団体型」です。親子参加型の競技は数多くありますが、親子で同じ道場で同じ時間に同じ先生より指導を受け、同じ会場の同じコートで同時に親子で試合ができる競技が他にあるでしょうか。毎年静岡県からの親子団体型のエントリーは、全国 No1

です。親子の一体感が支部、そして県全体の一体感を築いているのだと知ることができました。大会の最後は一般男子組手決勝で締めくくられました。ベスト 4 には総本部の永木伸児・牧田拓也の両指導員と甲斐健太研修生に加え静岡県より新井翔太選手(将陽館)が入り会場を沸かせました。決勝は永木・甲斐両選手により行われました。共に全日本チームに所属している実力者だけに白熱した試合が展開され、永木選手が接戦の末、見事優勝しました。これをもって本大会は幕を閉じましたが、次への戦いはもう始まっています。選手達は「来年もまた会おう」と、再会と再戦を約束して、日本各地に帰っていきました。私も、稽古を積み上げ心技体の鍛錬に勤しみ、本大会を共に戦った仲間と来年も是非再会したいと考えております。(レポート:広報部　秋山高士)

※大会結果は県本部公式 HP、または広報部 HP に掲載してあります。URL は左上をご参照ください。